

2023年度 光塩女子学院日野幼稚園 学校評価報告書

2024年3月
(学) 光塩女子学園 光塩女子学院日野幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりが神様から与えられた大切な存在であることを知り、神様に守られていることに感謝する子ども
- ・思いやりのある、素直であたたかい心の子ども
- ・笑顔ですすんであいさつができる礼儀正しい子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画・実施した内容

<重点目標>

- ①発達が緩やかな子どもへの対応を更に充実させる
- ②地域の小学校との連携、地域の施設との繋がり・地域社会への開放行事など
- ③情報発信の強化
- ④保育内容の充実（わくわくの森）

<計画>

- ①子ども一人ひとりの成長に沿った保育の実施、補佐職員や加配職員の配置、支援センター・保護者との連携、専門的な研修の実施
- ②幼稚園イベントの地域への開放、公立小学校での体験会の実施
- ③ブログ・インスタグラムでの情報発信強化、担当職員の増員
- ④わくわくの森の利用計画策定、様々な活動を実施

<実施した内容>

- ①発達が緩やかな子どもへの対応に関する研修の実施、対応について職員間での情報を共有、補佐職員や加配職員の配置
- ②幼稚園イベントの地域への開放、近隣地域イベントへの参加（お祭り・作品展・説明会等）
- ③ブログとインスタグラムの更新頻度を上げる
- ④わくわくの森のカリキュラム、わくわくの森の開放イベント、園児の手による植樹会

3. 評価項目に対する自己評価と取り組み状況、学校関係者評価（☆：成果 ★課題）

【評価点】 A=十分達成されている B=達成されている C=取り組まれているが、成果が十分でない D=取り組みが不十分である

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	取り組み状況・反省・改善点等	評価点	意見等
1 保育の計画性	①園の教育理念 教育目標に基づいて、 保育の計画を立てているか	A	①☆年間・2カ月案・週案で、カリキュラムを 作成し、計画的に保育を行っている。	A	☆カリキュラムが作成され、計画的に保育されている。 ☆行事についても狙い・目的が明確であり、反省も されている。 ★行事が豊かに実施され、内容も盛りだくさんである印象 だが、今後行事に追われる状況であれば精選の必要も ある。
	②指導計画は、幼児の実態や 周囲の状況の変化に対応できる ような、順応性のあるものに しているか		②☆子どもの成長に合わせ、必要に応じて、 保育者同士で話し合いカリキュラムの 見直し・修正を行っている。		
2 保育の在り方 幼児への対応	①園全体として、個々の幼児の 課題や発達について、保育者 同士、情報を共有したり、 家庭との連携がとれているか	A	①☆朝礼や会議で、その都度子どもの様子など 必要な情報を丁寧に、共有・把握している。	A	☆日々の連絡や、会議の共有などで、園児・保護者のこと など細かい部分まで共有されている。 ☆保育者同志の連携と日野市発達教育支援センターとの連携が 整ってきている。また、補助職員を適正に配置 している。 ★対応が必要な子どもを含めて、全園児を非常勤と共に 保育していくことを意識し連携を深める。
	②幼児にとって、安全で安心して 過ごすことができる環境を整え、 1人ひとりありのままの姿を 受け入れ、適切なかかわりが できているか		②☆クラス関係なく、保育者同士で協力・連携 している。 ☆特別な配慮を要する子も含め、担任を中心に、 一人ひとりにあった保育を行っている。 ☆毎日登園時の検温表チェックと、1日を 通して体調を確認している。		
3 保育者としての 資質と能力	①保育者としての在り方を理解し、 幼児の成長を自分の喜びと 感じながら保育ができていますか	A	①☆子どもの成長を第一に考えながら楽しんで 保育を行っている。 ☆子どもと保護者には、常に公平な対応を とっている。	A	☆全体的によいチームとして進めているという印象を 受けている。 ☆子どもたち一人ひとりの成長を喜び、楽しんで 保育している。 ★様々な経験を持つ職員同士が互いに保育を振り返り、 協力しあう体制が整っているか確認することが課題である。
	②教職員全員で一つのチームで あることを自覚しているか		②☆教職員全員で共有して、幼稚園全体で子ども たちを見守っている。		
4 保護者への対応	①保護者に対して、適切な 情報発信・幼児の様子を 伝える工夫をしているか	A	①☆HP・ブログ・インスタグラムで園の情報を 発信する頻度を上げた。（週5回） ☆保護者の要望に応え、給食の写真を インスタグラムに掲載。 ☆毎月の園だよりや学期毎の学年だより、 懇談会・保護者面談等で子どもの様子を 伝えている。 ☆出席カードには毎月担任から子どもに対して コメントしている。	A	☆情報発信に関しては、最大限の工夫・改善が見られて いる。 ★保護者の考えに幅がある為、園としての考えを持ち、 丁寧に対応することが必要。 ☆電話対応や面談・懇談会等を通して、子どもの様子を 適切に伝えられている。
	②保護者が相談しやすい環境を 整えているか、また、相談や 要望には丁寧に対応しているか		②☆保護者の相談には連絡帳を活用し、必要に 応じて電話や、個別面談をしている。 ☆保護者アンケートを実施している。		

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		
		評価点	取り組み状況・反省・改善点等	評価点	意見等	
5	地域の自然や社会とのかかわり	①地域社会の中で、幼稚園として子育て支援などの役割・使命を果たしているか	B	①☆在園児に向けては、預かり保育・4年保育など子育て支援を充実させている。 ☆日野市から派遣される、臨床心理士による、保護者向けの子育て相談会を実施している。 ☆外部向けとして、毎月園庭開放・室内開放を行い、定期的に給食体験も実施している。 ☆未就園児クラスは、親子で乗車可能なスクールバスを運行させた。(前期のみ) ☆秋まつりなどのイベントには、一般に向けても開放した。(卒園生も招待) ☆地域の中学校や姉妹校からの職場体験を受け入れた。	B	☆地域を視野に入れた、多様な取り組みにより地域に根差した幼稚園になってきている。 ☆地域との交流、連携も前年度の反省を活かしてきちんと進めている。 ★計画されていた小学校との交流が実現できるとよい。
	②小学校と連携はできているか					
6	研修と研究	①保育に活かすための研修・研究を行っているか	A	①☆日野市の研修への参加や、姉妹園と合同研修・交流研修・新任研修を実施した。 ☆臨床心理士による、発達に関する専門的な研修を受講。 ★今日の課題など、個々の教員による研修参加が少なかった。	A	☆姉妹園との合同研修など、多忙な職員の方々との活動の中十分な努力がなされている。 ★課題として、様々な研修がある中で、園全体として進めていく課題、年次ごとに必要な課題、個々に進める課題など整理し、計画的な研修計画をたてるとよい。
	②自分の保育について、評価・反省を行っているか					
7	幼稚園の特色・取り組み	①【カトリック幼稚園として】一人ひとりが、かけがえのない大切な存在であるという、カトリックの教えに基づいた保育が行われているか	A	①☆朝の会・帰りの会、食事の前など日常にお祈りの時間を設けている。 ☆マリア祭、七五三、クリスマス会などの宗教行事を実施。 ☆マリア祭、七五三には、希望する保護者にも参加していただいた。(各20名程) ☆シスターによる宗教の時間、担任による宗教の時間を実施した。 ★姉妹園との合同研修で、宗教カリキュラムの作成方法を学んだ。	A	☆カトリック幼稚園としての取り組みが丁寧に進められている。 ☆保護者が教会の行事に参加できることが素晴らしい。 ☆教職員を通して「かけがえのない大切な存在」であることが子どもたちに伝わっている。
		②【豊かな自然環境】わくわくの森など、自然を活用した保育・行事が行われているか	A	②☆山のカリキュラムを作成し、森での活動を計画的に行った。 ☆わくわくの森の自然を活用した保育・行事を実施した。 ☆イベントでわくわくの森を保護者に開放した。草取りイベントとして、保護者と一緒に森の整備を行った。 ☆園児の手による、植樹会を行い、命の尊さを学んだ。 ★森の整備体制について、ボーイスカウトに協力してもらうなど、教職員の負担の少ない形を確立することを目指していく。	A	☆山のカリキュラムを作成され、森での計画的な活動による保育が実施されている。 ☆命の大切さは、自然環境を通して「肌感覚、臭い(銀杏が臭い等)」を五感で知ることが大切だと思う。 ☆木の実や枝などを使った、製作活動は、十分に達成されている。 ★課題として、保護者に森を開放する機会を増やすことができればよい。また、森の環境整備は、外部の力を活用するなど計画の必要があるのではないかな。
		③【手作り給食・食育】給食や食育を通して、食に関する学びを子どもたちに伝えられているか	A	③☆自園調理の給食を週4日提供。 管理栄養士を配置し、アレルギー対応について保護者と個別に面談している。 ☆給食のメニューを充実させて、季節を感じられる献立としている。 ☆園内の畑で野菜を育て、収穫した野菜を給食に取り入れた。 ☆食育プログラムとして、園内で獲れた銀杏を奉仕の一環として保護者に販売し、売り上げを献金した。 ☆毎週水曜日の預かり保育で、手作りおやつを提供した。	A	☆幼稚園の大きな特徴の一つであり、幼稚園選びの決め手になっている。 ☆給食中の事故がないように、より一層の見守りが必要。 ★課題として、畑で作った物を給食で食べることを計画的に実行できるとよい。各学年との食育カリキュラムの再確認が必要。
		④【スクールバス】スクールバスを安全に運行できているか	A	④☆バスマニュアルに基づいた、安全対策を徹底した。 ☆スクールバスに、置き去り防止システムを設置した。 ☆れんらくアプリに、保護者のお迎え時、登録を徹底。 ☆れんらくアプリで、バスの運行状況がリアルタイムで把握できるようにしている。	A	☆マニュアルに基づき、安心・安全にバス運行がされている。 ★バス置き去り防止システムに頼らず、各自が意識して園児の安全を第一にできるように心がける必要があると思われる。 ★非常勤職員のバス乗車が始まり、現状を常勤職員が乗車し、定期的に確認が必要と思われる。

4. 総合的な評価結果 【評価点】 A=十分達成されている B=達成されている C=取り組まれているが、成果が十分でない D=取り組みが不十分である

評価	理由
A	☆幼稚園の特色の「カトリック教育」「豊かな自然環境」「手作り給食」に関して高い評価を受けた。 ☆「降ろし忘れ防止システム」を設置し、バスの安全管理に配慮した。 ☆保護者アンケートの要望に応え、「給食写真」の発信を行った。 ☆様々な行事に関しては、コロナ禍以前の状況に戻すように務めた。 ☆園児が、安全に過ごしのびやかに成長していけるよう、非常勤を含め教職員全員で情報を共有し、連携している。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 ★地域の小学校との連携や施設との繋がりをもち、地域社会への開放行事を行う	・地域の小学校に出向き、小学校体験や小学生との交流を行う
2 ★発達が緩やかな子どもへの対応を、引き続き充実させる	・必要に応じてクラス・学年に、補助職員を配置する ・保護者・日野市発達教育支援センターとの連携を強化する ・専門的な研修会を受講する
3 ★非常勤職員との情報共有と連携を強化する	・園児一人ひとりの成長過程や変化などについて、全体共有を行う ・スクールバス待機の時間やスクールバス内でのあり方や様子などの確認を、こまめに行う